

## 子育て世代包括支援センター・ココシエの開所からの動きについて

## 1 ココシエの対応実績（平成28年9月末時点）

○対象別の延べ件数（支援方法別）（ ）は実件数

対象別	家庭訪問	来所相談	電話相談
妊婦	13 (12)	3 (2)	10 (3)
産婦	17 (7)	2 (1)	9 (4)
新生児	5 (5)	0 (0)	0 (0)
乳児	11 (4)	3 (3)	7 (5)
幼児	8 (7)	1 (1)	11 (9)
児童	1 (1)	0 (0)	0 (0)
その他	2 (1)	2 (2)	0 (0)

- ・家庭訪問は、精神疾患、知的障害のある妊婦が出産し子育てをしていく過程の支援として、産婦、乳児に対する延べ件数が増えている。
- ・来所相談は、問題を抱える本人よりは家族が来所し相談するケースが多い。
- ・電話相談は、不安を抱える妊婦本人からの電話対応に時間を費やす傾向にある。

○会議等の出席回数

個別支援会議	8
その他	4

- ・個別支援会議の内容は、関係機関と児童虐待や、問題を抱えているケースの退院に向けたものである。

○関係機関との連絡調整件数

医療機関	33	保育園・幼稚園	4
児童相談所	23	母子保健推進員	2
市他課	16	警察署	1
他市町	11	宇部健康福祉センター	1

- ・医療機関、児童相談所からのケース連絡、他市町からの情報提供などの窓口になり、地区担当保健師と連携しケースの共有を図るとともに、ハイリスクケースについては中心となって関わっている。
- ・警察署からの連絡は居所不明児の居場所確認ができたものである。家族支援や、転出した先の市への情報提供及びケースの引継ぎを行った。

○支援プランの作成 1件

- ・支援プランは、小児科、こども福祉課、生活保護係、児童相談所等他機関が関わるケースについて作成している。支援プランを作成することで、ケースの支援目標を共有し、各関係機関の役割を明確化した。

## 2 ココシエ開所による効果について

- ・子育て世代包括支援センターは、妊娠期からの切れ目ないきめ細やかな支援がうたわれている。

妊娠届出時の状況把握から気になる妊婦への家庭訪問、また母子保健推進員が行う妊婦訪問から気になる妊婦もしくは母子保健推進員が会えない妊婦への家庭訪問を行うことにより、妊娠期からの切れ目ない支援が実践されてきているように感じる（保健師の昨年度妊婦家庭訪問件数は延べ9件、今年度9月末時点では延べ22件（地区担当保健師分も含む））。出産後は、新生児訪問、母子保健推進員の「こんにちは赤ちゃん訪問」を通じて引き続き全数把握している。

きめ細やかな支援を必要とするケースに対しては、支援プランを作成し、家庭訪問や、関係機関との連絡調整などを通じて課題解決に向けた取り組みを行っている。

- ・出生届の際に記入する「乳児健康診査受診券申請書」を活用し、新生児訪問や、分娩予定日より早く生まれた母子に対しての早期支援に取り組めるようになった。
- ・相談窓口を一本化することで、関係機関との連絡調整が図りやすくなり、地区担当保健師とのケースの共有や、ハイリスクケースには複数で支援する体制が取れてきている。

## 3 ココシエの今後について

- ・ココシエでハイリスクケースを中心に手厚く対応している。若年や貧困、虐待、DVなどのケースが増加しているように感じる。今後ますますこども福祉課や社会福祉課、児童相談所、警察、医療機関等の関係機関とのネットワークの構築に努めていきたい。
- ・平成30年4月の子育て総合支援センターのオープンにあたっては、妊娠期から子育て期にわたるまでの様々なニーズに総合的相談支援を提供するワンストップ窓口として、ココシエを子育て総合支援センターに移す計画になっている。